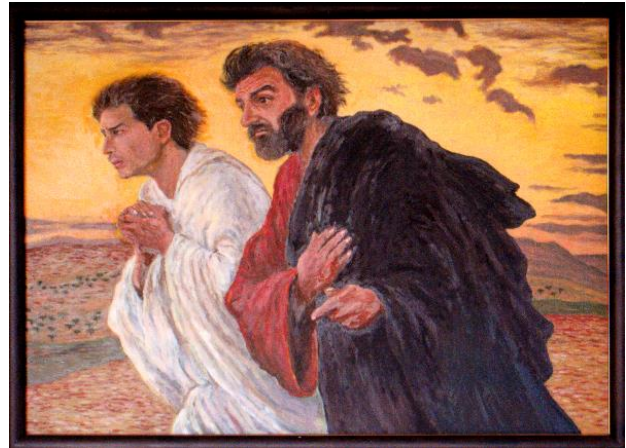


あかしびと

イースター号 2013.3.31 発行
日本バプテスト同盟 金沢文庫教会



ユージン・バーナード作「墓へ急ぐペトロとヨハネ」

中山将太郎模写

「そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた」

(ヨハネ二十三―四)

イースターの意味

白根新治 (牧師)

「十字架の言葉は滅んでいく者にとつては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」 (エペソ二・十八)

二千年前ギリシャで、文化・学問の中心として栄えたのはアテネであった。パウロはここで伝道している。しかしあまり成果が得られなかったため、エーゲ海とアドリア海の地域のコリントに場を変えて宣教に死力を尽くした。

当時市街地には、多神教の世界を表徴するような「知らない神に」と録された祭壇が、ポセイドン、デュオニソスやアポロン等に林立してあるのを見て驚いた。

パウロはこの世界で、天地宇宙の創造者なる神以外に神は実在しないと喝破する。十字架はローマ帝国が反逆者に対して行った極刑である。そして大胆に

呪いの木である十字架にかけられたイエスこそ、真の救い主であることを示した。そして会衆の中から多くの者がこれを理解し、信じる回心者が出た。文頭の聖句の通り、信ぜぬ者は滅びのしるし、だが、信ずる者には神の力となったのである。このキリストは十字架上に於いて死に、アリマタヤのヨセフの墓に葬られて三日目に復活なされた。復活は超自然的な出来事である。信ずる者もいれば、当然信じない者もいた。しかしパウロは主イエスは死に勝って復活したもうた。もしなさらなかったならば自分の現在なしている宣教の業は一体どうなるのか、空しいことになるのかと力強く迫る。そして事実キリストの復活の「初穂」として死に勝利したことを堅く信じた。この信仰を通してコリント教会が誕生するのである。

コリント教会の会員はバプテストを受け神から与えられたそれぞれの賜物を活用して、助け

主である聖霊の働きに助けられ、教会の中ではキリストの肢として、キリストを中心に神の家族として一つとなり、健全な初代教会の発展を担っていったのである。

「信じる」ということ

中山将太郎

信仰の父・アブラハムは創世記一五六で、「アブラムは主を信じた。」とある。この一句は非常に重い。「信じる」ということは、日常生活において如何に大切なことか！ 逆に信じない「不信」というものが、この世に蔓延したら、私たち人間はどうなるのか？

人間の心の動きを来たす対象に、真理と人格を挙げる事ができる。真理を信じるのは宗教的なもので、霊的平安の為、絶対的なものを求める。芸術、音楽は、その中間的存在でしかなく、付属的なものである。とにかく、人生に何か絶対的で、ゆるぎないものが基本にないといけない。

なぜなら、信じなければ逆に、裏切り、裏切られる。世は無常である。「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、

かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。」(方丈記)

『平家物語』に「諸行無常」、『方丈記』に、人生は河の流れのようと、何れも「無常」を強調する。ここで絶対的なものを求め、双方とも満足できる為には、初めも無く、終わりも無い「神」の存在が基本、根底にないといけない。また、このような「非常」という現実を人間に悟らせる為、死が有るといっても過言ではない。

歴史上、地球上で、戦争の無かった年代は、僅か二〇年であった。事実上、戦争が無くても、殺人殺傷は毎日、各地で繰り返られ、ニューヨークだけで、一日平均五人殺され、傷つukのは枚挙に暇がない。このことを旧約の先達は、カインがアベルを殺したという「近親殺人」で警告した。

また、「バベル」の塔で最近発掘して証明されたのは、ピラミッド式で七層になっており、頂

上の神殿で犠牲(いけにえ)が捧げられたことが発見された。シユメル王が着工し、ネブカドネザル王の代に完成し、後日崩壊した為、住民が四方八方に散らされ、言語の混乱、民族の不和となり、今日まで、天下は太平ではない。

イスラエル民族の歴史を見るだけで分かるように、終始一つの目標に向って動いてきた。すなわち、旧約のアブラム(BC一八〇〇)からモーセ(BC一二〇〇)、ダビデ(BC一〇〇〇)、イザヤ(BC八〇〇)、エレミヤ(BC六〇〇)で、新約のイエス・キリストに至る。

聖書は、キリスト教は契約の宗教である、と教える。すなわち、モーセの十戒を主に旧約があり、イエスに至って、十戒が分かりやすい二つの①神を愛し、②人を愛せよ、との新約にまとめられた。

目次

イースターの意味	白根新治(牧師) …	1
「信じる」ということ	中山将太郎 ………	2
日野墓地を前にして	井上美代子 ………	3
イエスから目を離さないで	大井 人(元協力牧師)	
	説教ノートより…	4
イエスの言葉	梅谷興三 ………	5
幼子の祈り	犬塚志朗 ………	7



松田みちよ画

日野墓地を前にして 井上美代子

私は一九二二年(大正十一年)二月十日、兵庫県の西の端、忠臣蔵で名高い義士の町、播州赤穂で生まれました。十五歳の時父を失ひ、四人兄弟の長女として母を助け、一家を支えてきました。

二十六歳の時主人の離婚問題に巻き込まれ、右するか左するか随分苦しい日々が続きました。その六年間は肋膜炎、肺浸潤、胃潰瘍と病気の連続で、病院と家の入退院をくり返して居りました。三十二歳の時胃下垂の治

療のため姫路のマリア病院に三ヶ月入院致しました。

最初は六人部屋でしたが後半の一ヶ月は二人部屋となり、その相手のお方が夜中に何かブツブツ言つて居られますのでお聞きすると、お祈りをしていると、その方は神戸の人でクリスチャンで病名は肺癌との事、退院したら鳥取に行かれるとの事、そしてキリスト教のことをいろいろ教へて貰ひました。そして私も退院したら教会に行つてみようかと思ふ様になりました。

その教会は小学校の頃通ひ慣れた道の途中にありました。

退院した五月のある日、みどり色の両開きのドアをギーと開けて入りますと、やさしい先生が「よくいらつしやいました」と迎へて下さいました。その先生はキリスト教赤穂メソジスト教会の平松牧師先生とおっしゃいます。

そして私は救はれたのでございます。

それから日曜礼拝に出席し、お説教をお聞きし、賛美歌を歌ひ、水曜日の午後聖書研究会に出席し、聖書を学びました。東洋紡績赤穂工場の社宅の奥様と、一寸離れたところの公認会計士の奥様の三人でした。確か新約のマタイ伝からだつたと思ひます。三章の「汝、誓ふなかれ、

そこは神の御堂であるから」とか「狭き門より入れ、滅びに至る門は大きい」とか、その後の人生の指針となる御言葉を勉強致しました。そして思つた事は、「三十二歳の今迄自分が見聞きしてきた事の反対の事ばかりを牧師先生は教へて下さいます。もし二十歳の時このような教へがあることを誰かが教へて下されていたら、私の人生はもつと変わったものになつたであらう」と・・・。

そしてその年のクリスマスに、結婚はもういい、自分はイエス様の花嫁になつて一生暮らすのだとの思ひで受洗の榮譽に与(あずか)りました。

あれから六十年、受洗してからも山あり谷ありの人生でございましたけれど、その都度恵まれて、恵まれて、今に至つて居ります。

齢(よわひ)九十歳を迎へました。一昨年九月、内科の先生の勧めにより五十年住み慣れた姫路の地を後にして、子どもの頃よりあこがれて居りました湘南の地に、娘夫婦に引き取られて参りました。

あなたに選ばれ

あなたに近づけられて

あなたの大庭に住む者は

幸いである

(詩編六五編四節)

この御言葉は愛媛大学の中村保夫先生より頂きましたもので、それが昨年百一歳で亡くなりました主人の絶筆と成り、色紙におさまつて私の枕元に飾つてございます。

何時もお訪ね下さる白根先生、お優しい文庫教会の皆々様、こ

れからも宜しくお願ひ致します。



フラワーデザイン「イースター」

絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。

* * * * *

うさぎと亀の話といったら誰でもよく知っている童話ですね。その新解釈を小学館発行の童話全集からご紹介します。

うさぎが亀にいいました。

「亀君、君は本当に足がのろいんだねえ。どうしてそんなにのろまだい？」

亀は別に腹を立てた様子をみせずに、

「おやおや、随分はつきりとおっしゃいますねえ。それでは、どちらが速いか駆け比べをしましょうよ」と。

あとは皆さん、よくご存じの通りです。この話の教訓は一般的には、うさぎのように油断は禁物、亀のようにこつこつ積み上げる努力が大切、ということになるでしょう。ところがうさぎの負けた原因、亀の勝ったわけを、次のように解釈した人がいます。すなわち、うさぎの敗

因は亀を視ていたところにあり、亀の勝因はゴールを視ていたところにあるというのです。自分より明らかに能力はなく、のろまで愚鈍な亀が相手である限り、自分は負けない。うさぎは優越感に浸り、勝利に酔いしれていたわけです。このような生き方は、自分より能力のある人に出会うと容易に劣等感のかたまりへと転落するのではないでしようか。

私たちは、周囲の人々や物事、出来事に一喜一憂させられて生きています。それはまさしく兎の姿といつていいでしょう。一方、亀は「おやおや、ずいぶんとはつきりしたことをおっしゃ

いますねえ」とうさぎのあざけりを軽くあしらひ、腹も立てず、用意ドンで走り出した。

亀はうさぎが速かろうと、能力があろうと、自分が負けに決まっていようと、ひたすらゴールを目指していたわけです。これは、お互いの一日一日の歩みにとって大切な教訓だと思われ

ます。
聖書も、人生というものをマラソンに譬えています。それが先に掲げた聖句です。



フラワーデザイン「イースター」

(クブライ12:1-3)

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や

イエスから
目を離さないで
(大井 人元協力牧師説教ノ
ートから)

* * * * *

イエスの言葉

梅谷興二

入信の経緯

イエスの語られたという言葉が聖書に書かれている。新約聖書マタイ伝、マルコ伝、ルカ伝所謂共観福音書である。私が初めて聖書に接したのは中学三年の時であった。兵庫県明石市の人丸教会である。日本の時間―標準時とされている子午線―天文台のある近くである。そこから当時の実家は五kmくらいの隣町であった。教会での礼拝や近所での家庭集会、バイブルクラスが開かれていた。私は昭和七年（一九三二年）つまり中国戦争や第二次大戦の前哨戦となった満州事変が起こった翌年に生まれ、教会に行き始めたのは敗戦直後だった。

観が転換し動揺していた。私は戦争には行かなかったが、戦後教科書は黒塗りの箇所が多く混乱した。又特攻隊を志願したものの敗戦となり、帰ってきた先輩たちの悩みは深刻であった。太宰治が読まれていた。国のためという大義名分がなくなり、アメリカに勝つためという目標がなくなり、悲惨さが日本全体を覆っていた。昭和二十一年には両親も亡くなり、呆然自失の私にとって教会はまさに渡りに舟であった。教会がもしなければ自分はかなり荒廃したに違いない。

戦後史

敗戦は無条件降伏であった。一九四五年二月、秘密裏に開かれた米英ソのヤルタ会談でソ連が日本との中立条約を破棄して攻撃する手筈となっていたことを日本政府は知らず、当時日本とは戦争状態ではなかったソ連を仲介役として、少しでも日本に有利な条件で停戦に持ち込もうとしたが、すでに遅く、満州は怒濤のごときソ連の攻撃によって占領され、国土は米国に原爆を落とされ、降伏を余儀なくさせられる結果となった。

敗戦後、当然のことながら国家社会の背後にはアメリカの占領政策があり、GHQがコントロールして教育の民主化（同時に日本の無害化、非軍事化―再びアメリカに反抗しない政策でもあった）がすすめられていた。天皇制の廃止も真剣に検討されたようだが、最終的にはその維持は日本を平穏に支配するためにやむをえないと考え、昭和天皇は戦犯ともならず、憲法では天皇が実権をもたない象徴として残された。皇太子の教育にもクリスチャンのヴァイニング夫人があたった。アメリカからは大勢の宣教師が日本の宣教のため派遣された。戦前（一九〇九年）から貧民街に住み込み、世界的にも有名であった賀川豊彦の全国の講演会は会堂がいつも満員だった。受洗者が続出した。

しかし朝鮮動乱が勃発、北と南に別れてソ連と米国が争い、一時は中国も北朝鮮を加勢、マッカーサーは原爆投下をほのめかしたこともあり、彼は解任され停戦が実現した。しかし日本は米国との安全保障条約をめぐり国内は分裂、学生運動も過激となり、一般の大学は勿論、神学校まで授業が不可能となった。当時朝鮮動乱時に皮肉なことに国内景気は活性化、田中角栄の列島改造や中国との国交回復を得て日本は高度成長に入る。教会のブームは過ぎ去り、以来クリスチャンの人口比は一言われて久しいのである。統計の出し方にも問題があるし、教会員以外にも、たとえば無教会の人々、洗礼を過去に受けていて教会の籍にない人もかなりいると思われる。

キリスト教関係書やキリスト者の小説が、多数図書館に置かれているのをみても必ずしも廃れているとは思えない。プロテスタントの教派は教え切れない

ほどありながら、まとめていく運動はあまりなく危機意識がないように思われる。

現況

私自身、説教はかなり聞いていても、さてキリスト教のエッセンスは何かと問われると自信をもって答えられない。聖書は構成においても多岐にわたっており、特にパウロやルターの解釈についても釈然としない。聖書の記述には書かれた背景、時代があり、フレーズの一部を取り上げては必ずしも意味がない。私自身、盲人が象を撫ぜ、象はどんな動物かときかれた譬え話を思い出す。聖書は二〇〇〇年以上前のことが書かれたものである。この解釈も簡単ではないが、一方現代の状況をかなり把握していないと、現代に生きるものとしての的確な判断を誤るおそれがある。私は混乱した自分のために、まずは原点に戻って考えてみる。

それは、イエスは何を語ろう

としたのかということである。

「新約聖書に書かれた系図は主としてユダヤ人の為に聖書(旧約)からの預言の正統性を示すものであり、数々の奇跡は神聖さに対する信仰を証ししていると思う。肝心なのはイエスの言葉と行動から、今日生きる私どもが何を学ぶかということである。イエスの言葉の一部ではあるが学んでみたい。具体的に説得力がある。」

山上の垂訓(山上の説教)というものである。山上で一気に説明したのではなく、おりにつけ、話された言葉をまとめたものといわれている。

① 幸いな人、

心の貧しい人々

(価値の転換、従って一般的には幸いな人とは言われていない)

い)

悲しむ人々

柔和な人々

義に飢え乾く人々

憐れみ深い人々

心の清い人々

平和を実現する人々

義のために迫害される人々

② あなた方は地の塩であり世の光

(弟子たちに話されたのであるが今のキリスト者にも言われているのではないか。)

③ 律法について

イエスは、私は律法を廃止するために来たのではなく、完成するため来た、と言う。では完成とは何か？(参考 パウロは愛こそが律法を完成するものだといっている。ローマ書13章8節)

例示

1 腹を立ててはならない
まず仲直りをしなさい

2 姦淫してはならない

みだらな思いで他人の妻

(女)を見てはならない。

(主の祈り)

3 離縁してはならない

4 施しをするときは隠れて施し、祈るときは隠れて祈る

断食するときは隠れて断食する

5 人を裁くな

まず自分の目のごみを取る

6 求めなさい

パンを欲しがると自分の子供に石を与えるものがあるだろうか

7 狭い門から入りなさい

滅びの門は広々している

③ 実によって木を知る

偽預言者か否かはそれにより判別できる

④ あなた達のことは知らない

天の父の御心を行うものだけが天国に入る

⑤ 家と土台

これらの言葉を聞いて行わないものは砂上の楼閣のようなもの

(ここ)で山上の説教は締め切られる。)

旧約の中にある十戒に比べ、

より徹底し精神的で、十戒が法律とすればイエスの垂訓は道徳

や倫理、それも神の目から見た

高次元のものだと思われる。パウロのいわゆる信仰義認の解釈

ウロのいわゆる信仰義認の解釈

の仕方には問題がある。パウロなくして世界宗教としてのキリスト教はなく、彼は地中海沿岸を宣教してまわっている。さらに学んでいきたい。

注

当時の律法はモーセの十戒のみならず何十という細則があった。外形を守ることが大事とされた。やれ、安息日を守れとか、罪人と食事をもにすんな等々。イスラエル民族の独自性、団結、それによって民族の生活秩序が守られ、外部からおこってくる幾多の困難を克服でき、エジプトからの脱出も成功したと思われる。(律法は当時、旧約では妥当性があった。)

しかし、これにより戒律の意味を考えることなく、形式にこだわり、それを守るだけで毎日はずぎる。そこにイエスがやってきた。イエスは新しい宗教を始めるという自覚はなかったようである。「私は律法を完成するためにやってきた」と言っている

るからである。総括として、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。自分を愛するよううにあなたの隣り人を愛せよ。」
「口で言うだけではなく実行せよ。」という言葉がある。

以上



墨絵「牡丹」梅谷興三画

幼子の祈り

犬塚志朗

(ローマの信徒への手紙八章)

「あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によってわたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。…… 26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。……」
そして宗教改革者・ルターの解説、

あまりの苦しみに直面して、アバ、父よとうめきしか言葉を発することができなかつたとき、そのうめきは天上で雷鳴の音にも勝って鳴り響いて神様に届けられる。

* * * * *

これから私が述べることで、

幼稚で能天気だとか、おめでたい人!と思われるかもしれませんが、私には、生活の根底となっていて大切なことなので書きました。

今から50年近く前のことです。多感な青春の真っ只中、大學生で受洗して間もない頃、地区合同の教会青年集會に参加した最後の帰りの日のできごとです。今にも雨が降りそうな曇天下、迂闊にも雨具が無く無防備で三十分の道程を自転車で帰る私は、閉会礼拝の最中も、帰りの自転車のペダルをこいでいるときも、雨が降り始めるたびに、思わず「神様、雨を止めてください」って祈ってしまいました。すると雨が止んで、「まさか、こんなことであるのかしら?」と疑心が湧いてくると、またポツリポツリと降り始め、思わず再び、「雨を止めてください」…。この繰り返しで濡れずに帰宅しました。ところが自宅に着いた途端に雨がざーっと音をたてて降り始め、その後しばらく止

むことはありませんでした。

このような、なんとも不可思議な現象が、その後何回かくりかえされました。それらが今でも鮮明な映像として、そして屋内に入った途端に屋根や地面を急に激しく打ちつけ始める雨音が、心に残っています。それは台風之余波で暴風雨の日であったり、梅雨の季節や、雷雨時、雨が降ったり止んだりといった日の出来事で、偶然といえれば偶然、科学的根拠はありません。

しかしイエス様の山上の垂訓、奇跡物語を学び始めたばかりで、信仰的には生まれたての赤子であり、片田舎の純真(?)な若年の私には、自然をも支配する神様自らが、祈りについて導いて下さったのではないかと思えました。(それともお目出度い勘違いでしょうか?)

その後、五十年の月日が流れ、聖書や解説書、牧師先生等の神学の講義に触れて、精神的にも成長したように感じます。でも大学時代に私の身に起ったこの

出来事については古希を迎える現在でも、祈りへの導きの奇跡物語であったと信じています。

もうご利益的祈りは止めましたが、腹痛で苦しんでいるとき、また、手術の最中とかで、どうしようもなく、思わず「痛みを止めてくださいっ!」と、祈りを口ばししてしまい、その後、苦しみや痛みから解放され、心に大きな安らぎが与えられた生活がくり返されて、今日に至っています。

* * * * *

この世で生活をしていく中、行き詰ってどうしようもなく、生きる望みを失ってしまうような出来事に直面することがあります。冒頭に掲げた聖句、そしてそれに続くルターの解説は私にとって大きな支え、励ましとなっています。

松田みちよ画



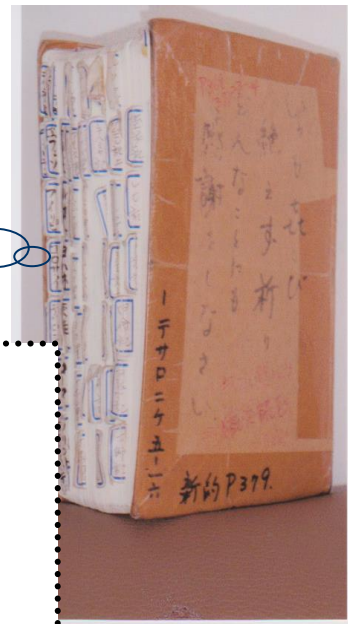
掲載されている原稿、挿絵はすべて本教会員の作品です

中川澄子姉の愛用聖書

愛誦聖句には付箋、表紙には筆書きで

「いつも喜び、絶えず祈り
どんなことにも感謝なさい」

I テサロニケ 5 : 16~18



あかしびと イースター号

発行日 2013年3月31日

発行所 日本バプテスト同盟金沢文庫教会

住所 〒236-0046 横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20

Tel/Fax 045-783-5475

発行者 牧師 白根新治

印刷所 (株)高陽印刷所

住所 横浜市南区白妙町 3-39

電話 045-251-4832

